

# 圧送性評価ソフト、K値推定ソフト 2022 年度版の仕様変更点

2023 年 3 月 15 日

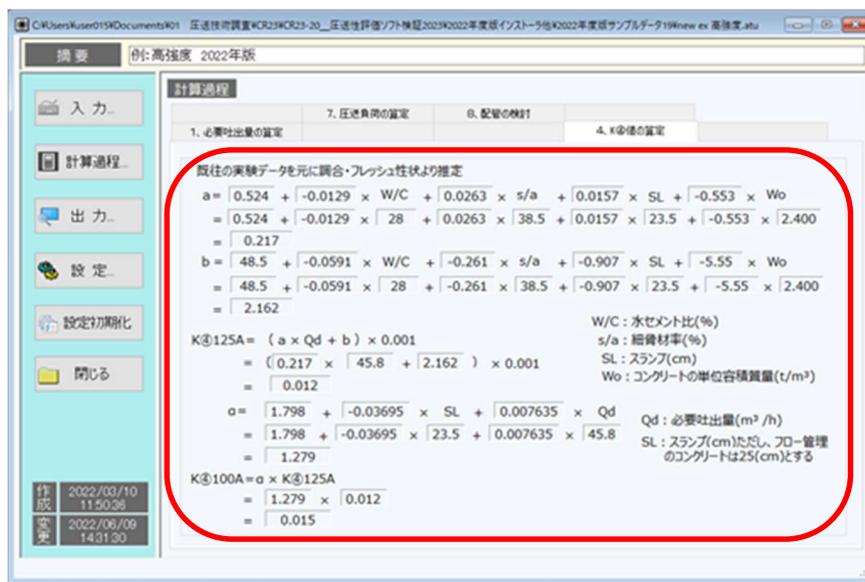
1、入力画面 ポンプ機種を追加し（8社240機種に拡充）とスランプフロー（45 cm）を追加



入力項目9 スランプ、またはスランプフローにスランプフロー45cmを追加し、  
 入力項目22 ポンプ機種を追加し8社、240機種に拡充しました。

（「最新コンクリートポンプ圧送マニュアル2020年版（第2刷）」より）

2、各種計算方法を切り捨てから四捨五入に変更

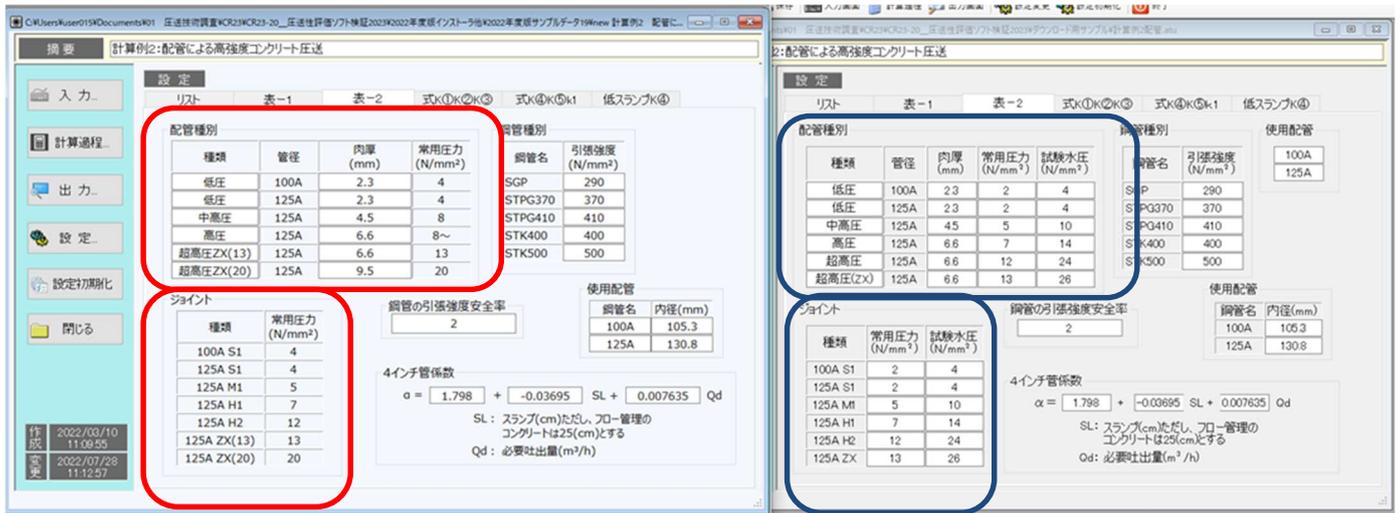


計算用のパラメータはそのままですが、各四則演算の際、これまでの「切り捨て」から「四捨五入」に変更致しました。このため、小数点以下の数字が従前と若干異なるケースがあります。

3 配管種別やジョイントの低圧の常用圧力の設定を従来の2N/mm<sup>2</sup>から4N/mm<sup>2</sup>に、中高压の常用圧力を5 N/mm<sup>2</sup>から8 N/mm<sup>2</sup>に変更しています。このため、従来と必要配管種別が異なる場合があります。配管やジョイント、必要肉厚の検討に本ソフトをご利用の際はご注意ください。

2022年度版

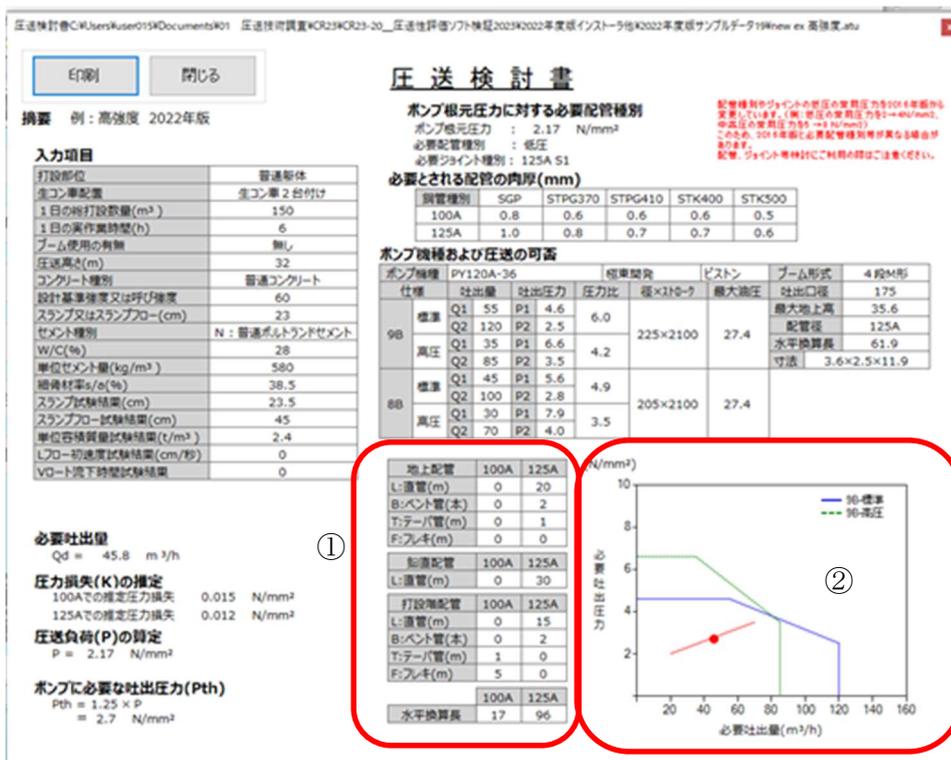
2016年版（旧版）



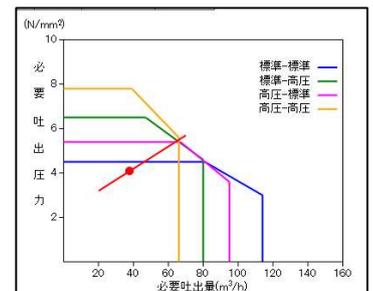
4 圧送検討書に①入力時の配管条件を新たに表示させるようにいたしました。

また、高压仕様、標準仕様の区別のあるポンプ車の場合、②それぞれの仕様にあったポンプ車のPQ線図のみを表示させるようにいたしました。

2022年度版



2016年版



5 K値推定ソフトの測定結果画面にグラフ元データを表示



従来、実吐出量と計測時吐出圧力のグラフ表示の元データが表示されておりませんでした。グラフ各点のデータを数値表示させるように変更いたしました。

以上